

運転再開時における旅客数の予測手法の開発

武藤雅威

大都市圏鉄道で人身事故などの原因により列車運行が一時中断に至った時、その旅客は平常時の移動とは異なる交通行動を取らざるを得ない。運転再開まで待つ場合もあるし、他路線に乗り換えるなど迂回経路をとる場合もある。バスやタクシーなど代替交通機関を利用する場合や、移動そのものを中止する場合もある。一方、鉄道事業者としては、運転再開時にどの程度の旅客数が見込まれるのかを事前に把握することにより、適切な列車本数の確保など、より良い運転整理案を構築することが可能となる。本研究ではその評価指針とすべく、運転再開時の旅客数を予測する手法を確立することを目指して、中断時の主要な行動である「経路迂回」対「運転再開待ち」の行動選択

モデルを構築した。さらに、実際に発生した中断時での旅客数の実績減少量とモデルでの試算減少量を照合することでモデルの再現性を検証し、手法の妥当性を確認した。

(鉄道総研報告, 2008年6月号)

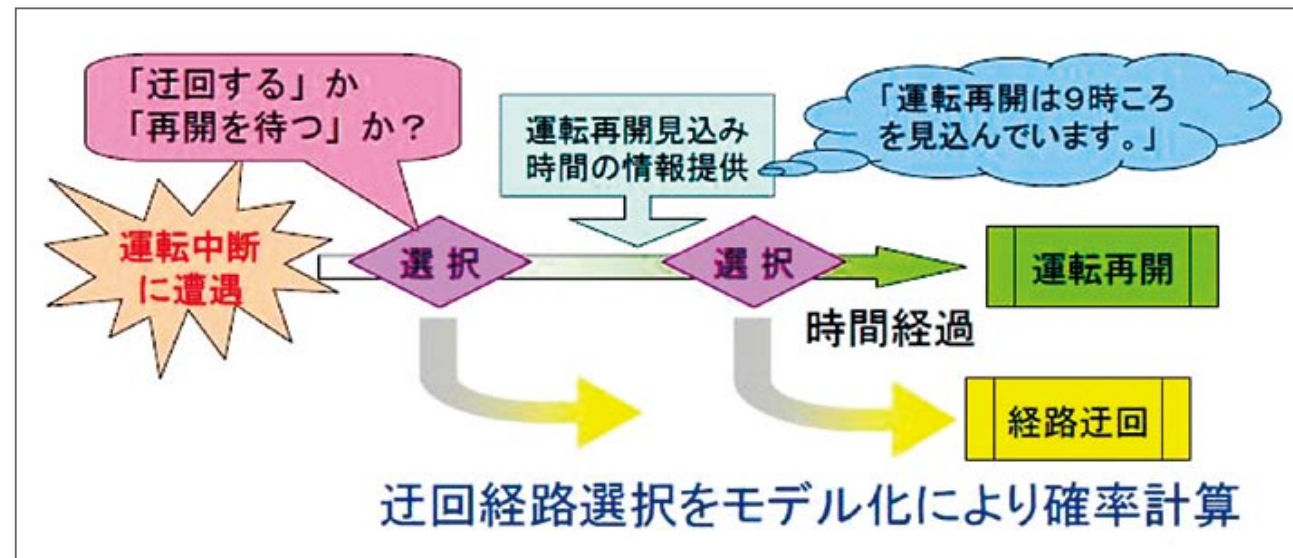


図 「迂回」対「待ち」行動選択モデルの概念